

2026.8.10

Q：第 1 四半期に株式の売却益を計上する一方、国債の残高が増加している背景、および今後の資産運用収益の見通しについて伺いたい。

A：国債の増加については、現預金の一部を短期国債に振り向けたことによるものである。一方、既存の資産運用については、従前の方針通り、債券の一部を株式へ振り向けるなど機動的な運用を進めている。第 1 四半期に株式の含み益を一部実現し、資産運用による利益は概ね計画通り確保していることから、今後は含み損の解消も検討しながら、ポートフォリオ全体のバランスをコントロールしていく方針である。

Q：ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)の管理目標を 210%とした背景、およびアニコム損保からアニコム ホールディングスへの配当を踏まえた資本配分の考え方について伺いたい。

A：ESR の管理目標 210%については、他の生損保会社の水準も見据えながら、やや保守的に設定した側面がある。今後については、210%という目標水準自体の見直しも含めて検討していく考えである。また、アニコム損保からアニコム ホールディングスへの 30.6 億円の配当については、中期経営計画におけるキャッシュアロケーションの策定時点で一定程度織り込んでいる。まずは中期経営計画で掲げる累計 60 億円の株主還元方針に沿って進めつつ、成長投資や基盤強化とのバランスを踏まえ、追加的な株主還元についても検討していく考えである。

Q：中期経営計画では累計 60 億円の株主還元を予定しているが、足元の ESR の水準を踏まえた余剰資本の考え方、および追加的な株主還元の可能性について伺いたい。

A：足元の ESR は管理目標の 210%を上回っており、一定の余剰資本があると認識している。現時点では中期経営計画で掲げる累計 60 億円の株主還元方針に沿って進める考えだが、余剰資本については、60 億円に上乗せする形で株主還元に充当することも選択肢の一つとして検討していく考えである。

Q: 『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』のフル稼働時期およびその際の売上規模について伺いたい。

A: 今後約 2 年でのフル稼働を見込んでおり、その際の売上規模は約 50 億円を想定している。

Q: 新規契約件数が、アクサダイレクトからの移管分を除くと前年同期を下回っている背景について伺いたい。

A: 新規契約の約 7 割を占めるペットショップチャンネルが、第 1 四半期に低調だったことが主因である。ゴールデンウィークを中心に旅行等のレジャー需要が強まったことで、ペットショップにおける犬猫の販売が前年同期比で鈍化した。一方、第 2 四半期に入ってから回復傾向にあり、ペット需要自体も長期的には安定していると認識している。

Q: 動物病院事業において、既存病院の閉院・縮小を進めている背景について伺いたい。

A: 足元では『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』を中心とした高度医療にリソースを注力している。また、既存の一次診療病院については、事業ポートフォリオ全体の収益性・採算性を踏まえ、個別病院の状況に応じて閉院や事業縮小を進めている。

Q: 損害率が想定以上に上昇している要因、および今後の対応方針について伺いたい。

A: 損害率上昇の主な要因は、保有契約ポートフォリオの高齢化と、動物医療費の上昇である。医療費については、物価上昇に伴う動物病院の診療価格の上昇に加え、CT や MRI 等の普及による医療の高度化も影響している。いずれも構造的な要因ではあるが、予防型保険の推進による健康年齢の延伸や、『JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo』をはじめとするグループ内の高度医療事業への取り込みを進めることで対応していく。また、物価上昇等を踏まえ、保険料改定についても並行して検討し、損害率の上昇を抑えていく考えである。

Q: 今後、自己株式取得を拡大した場合、既存の大株主の持株比率が上昇することが自己株式取得の制約となる可能性について伺いたい。

A：自己株式を取得・消却した場合、既存株主の持株比率が相対的に上昇することは認識している。一方、現在の株主構成のみを基準に資本政策を決定する考えではなく、成長投資、基盤強化、株主還元のバランスや、アニコム ホールディングスのキャッシュポジションを踏まえ、株主還元および自己株式取得の規模を検討していく考えである。